一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

# 早期発見の大切さ 町民健診の受診促進について

村中町長

## 安心して健診を受けられる体制を充実させ多くの方に受診いただけるよう努める

八巻（やまき） 良博（よしひろ） 議員

**□質問・八巻議員**

私は今年、保健師からの電話をきっかけに健診を受診し、がんの早期発見につながりました。複数回の入院・手術を経験しましたが、いずれも早期であったため、放射線治療や抗がん剤治療は不要でした。まさに「健診の重要性」を強く実感しています。医療技術が進んだ今こそ、まずは受診につなげることが重要です。町として、町民への周知や受診促進をどのように強化していくのか伺います。

**■答弁・村中町長**

町民の健診受診の促進は、生活習慣病やがんの早期発見・早期治療につながる非常に重要な取組みであると考えます。

本町の特定健診受診率は52％台で推移しており、国の目標である60％には届いていませんが、一人でも多くの方に受診していただくために、これまで受診勧奨方法等も年代に応じた対策を講じてきました。

特定健診については、特に40歳代、50歳代の受診率が低いことが課題であり、令和2年度からこれらの年代の方を重点とした案内文の発送や電話、訪問での受診勧奨に取組んだ結果、受診率は近年40％から45％へと向上しています。

多忙な年代であり受診まで結びつけることは難しい面もありますが、粘り強く勧奨を続け、高齢期の受診率向上にもつなげていきたいと思います。

また、特定健診を受けない理由の多くが「通院中」であることから、ご本人を通じてかかりつけ医から検査データの提供をいただく「みなし健診」を実施し、特定健診受診率の向上及び保健指導の強化を図っています。

がん検診については、体の変化が起こりやすい、48歳の男性と49歳の女性を対象に、令和6年度より町単独事業として、がん検診無料クーポン券「いっとこクーポン」を発行しています。このクーポン券がきっかけとなり、これまでがん検診を受けていなかった方が受診され、翌年度の受診にもつながっています。

加えて、精密検査が必要となった方で未受診の方に対しては、再度電話等で受診勧奨を行い、早期発見・早期治療につなげています。

今後も、町民の皆さまが日々を健康に過ごすことができるよう、健診の大切さを伝え、安心して健診を受けられる体制をさらに充実させ、多くの方に受診いただけるよう努めます。

**□八巻議員　働き盛り世代の40代、50代の受診率が低い状況です。私の体験のように、早期であれば治療の負担も小さく、安心して生活を続けられます。体験談を活用したPRや、受診しやすい環境づくりをさらに進めていただきたいと考えます。**

**■村中町長**　実体験に基づくメッセージは説得力のある記事になると思いますので、広報紙等で健診の重要性を発信するとともに、ご協力いただける方の体験談も紹介しながら、町民にPRしていきたいと思います。

**□八巻議員　バリウム検査への抵抗感から受診をためらう声もあります。負担の少ない内視鏡検査の周知や、ぴっぷクリニックを活用した夜間の健診など、より受診しやすい体制の整備についても検討をお願いします。**

**■村中町長**　健診バス更新に伴い、集団健診の在り方を見直しているところです。ぴっぷクリニックや旭川市の病院の活用などについて検討を進め、町民が安心して健診を受けられる体制づくりに努めます。



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

# 公共施設としての 図書館の在り方について

北川教育長

## 次年度から町民一人一人のことを考えた図書館運営を行いたい

今井（いまい） 明信（あきのぶ） 議員

**□質問・今井議員**

平成15年に開館した比布町図書館はこれまで多くの町民の利用があり、老若男女問わず、特に児童には大切な学びの場所であります。

図書館の利用は必ずとも図書を読む事に限らず勉強の場、バスやJRの待ち時間、余暇を過ごす場所でもあり自宅や学校、職場とは別な「第三の場」としての大事なスペースでもあります。

しかし、近年は全国的に財政難等の理由で新刊の購入が出来ない等、図書館をめぐる状況は厳しいようであり、本町も図書館の利用減少などを理由に休館日を月曜日から日曜、月曜、祝日に変更しています。

休館日の変更は令和8年度からの休館日、開館時間の見直しに向けた取り組みですが、次の3点について、教育長に質問します。

**⑴本町図書館の新刊購入状況**

**⑵図書館職員の増減検討**

**⑶公共施設として図書館の在り方**

**■答弁・北川教育長**

⑴図書購入予算は２００万円で、一般書と児童書の購入冊数は昨年度１、０６２冊、令和５年度１、１４７冊と減少している状況です。近年の物価高騰の影響により、新刊書籍１冊当たりの平均価格が上昇していることがあげられ、出版科学研究所のデータによりますと、令和５年上半期の平均価格は１、３１７円で、前年同期比４・９％増加しているようです。

利用者からのリクエスト本を購入できなくとも、図書館が所蔵していない資料を、他の図書館から借りて貸し出しが行える北海道立図書館の相互貸借制度も活用している状況です。

⑵現段階の開館状況や業務量であれば、現状の３人体制で運営が可能と判断していますが、図書館にどこまでの機能を持たせるかによりましては、増員の検討も必要と考えています。

⑶情報・知識の提供拠点、社会課題解決の支援、地域コミュニティの形成、文化・知の継承と創造などの役割を踏まえていることが重要と考えます。

**□今井議員　本町の令和6年度の図書館費が1、434万4、000円であり、図書購入に支障はなかったと考えますが、旭川市では図書購入が10年間で45・9％減少しており、購入できない状況が続いているようです。本町の図書館は今後も図書購入を維持していけるのでしょうか。**

**■北川教育長**　一般書並びに児童書の購入は今後も維持させていきたいと考えています。図書館の職員が日頃の貸出状況や児童の興味、関心のある図書を考察しながら購入しています。

**□今井議員　旭川市では利用者増の取り組みの一つとして新小学校1年生へ図書館利用カードを一括交付しているようです。本年、新たに中央ふれあい広場が整備され、多くの子どもの来園がありますが図書館に繋げるなど、利用者増への新たな取り組みを伺います。**

**■北川教育長**　日曜日に中央ふれあい広場に遊びに来てくれた子どもたちが、何かの形で図書館に来館する機会があれば有意義と考えます。

**□今井議員　一方で図書館は公共施設です。公共施設は利用者の大小等、採算が取れなくても必要な施設です。誰もが知識や情報を得ることができる知的インフラ施設でもあり、集客の施設ではありません。試験的運用は経費や利用者の大小が理由にあるのか。公共施設として日曜日、祭日の開館が望ましいと改めて考えています。**

**■北川教育長**　経済的な理由等で試験的運用をしているわけではありません。これまでの利用状況を見て、日曜日しか利用できない方もいらっしゃいますので、改めて町民一人一人のことを考えた図書館運営を次年度から行いたいと思います。